

# 基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 16

基本施策 人にやさしい道路環境の創出

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	生活道路の管理と整備	B
施策2	橋の長寿命化	A
施策3	誰にもやさしい道路整備	B
施策4	自転車走行空間の整備	A

## 成果指標

指標	内容	平成32年度 目標	平成29年度末 実績	単位	平成29年度の成果の検証
市道の改良率	市道の実延長に対する改良済みの延長の割合	83	82.9	%	15路線の事業推進により改良済延長の割合が増加した。
橋梁補修数	長寿命化のための補修を行った橋の数	15	15	橋	新在家橋他の長寿命化対策工事を実施し15橋の補修工事が完了した
歩道のバリアフリー率	歩道の総延長に対するバリアフリー工事を実施した延長の割合	41.9	41	%	城北泉嶽掛線の改良事業促進

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現 状	市道には老朽化などによる損傷がみられ、改修が必要な路面や橋なども多く、従来から市民の道路に関する要望が多い。また、バリアフリー化されていない歩道や、市民の安全通行が確保されていない路線も多い。さらに、自転車利用者が通行する際に、歩行者との接触や段差による事故の恐れがある。
課 題	適切な市道の管理と整備を推進する必要があり、整備にあたってはユニバーサルデザインの考え方を取り入れることが求められている。また、自転車専用の通行空間の整備が求められている。

## 社会情勢・市民ニーズの変化

- ・道路の改良や舗装や側溝の修繕などへの要望は依然として多い。
- ・全国的に通学中の交通事故や、高齢者の事故が多発しており、大野市においても対策への要望・関心度は高い。平成26年10月には大野市通学路交通安全プログラムを策定し、安全確保のための取り組みを毎年行っている。
- ・道路橋梁の長寿命化対策については、平成26年7月の道路法施行規則の改定により、橋梁の5年に1度の近接目視による定期点検が義務付けられ、平成30年度までに1回目の点検を完了する必要がある。

## 現在の「現状」と「課題」

現 状	集落内道路の改良要望は依然として多く、加えて老朽化施設の修繕、改修費用が増加している。このことから、要望に対して直ちにに対応できない箇所も多く存在する。
課 題	・通学路点検などで抽出された危険個所の対策については、既存の道路空間のなかで歩行者、自転車利用者の安全通行を図っていく必要がある。 ・従来の改良事業、修繕事業に加え、定期点検の費用や長寿命化対策費などが新たに発生し、必要経費が増大することが課題であり、国の補助事業等を活用して、予算確保を図る。ただし、長寿命化することで、将来的な必要経費は縮減される。自転車空間は整備されつつあるが、自転車利用のソフト対策の充実が必要である。

## 基本施策の「成果」

成 果	・道路改良については、要望箇所等順次整備を進めているが、一部用地取得に時間を要している。 ・橋梁の定期点検、長寿命化対策は適正に行われているが、道路等維持管理は予算面から十分な対応ができていない。 ・真名川サイクリングロードの全線整備を完了し、自転車走行空間を創出できた。
-----	--

## 改善点

今後も国の予算確保に努めながら、計画的に社会インフラの整備保全を図る。平成30年度は国体開催に向け国体デモンストレーションスポーツのサイクリング等のイベントで真名川サイクリングロードをコースとして利用し多くの市民が走ることで、施設を広報し、今後の利用促進を図るとともに、公共交通と自転車の連携、レンタサイクルによる回遊性の向上と、各種イベントの開催等により、自転車利用環境づくりを推進する。